

2013 年度（対象年度：2012） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 2	教育研究組織
------	--------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
201	付置研究所・センター等の研究組織は、理念・目的に照らして適切なものですか。	①研究組織の編制原理は明確ですか。	D	B
		②建学の精神に沿った研究組織（研究所・センター）を編制していますか。	B	
		③学術の進展や社会の要請に適合した研究組織（研究所・センター）を編制していますか。	A	
202	教育研究組織の適切性について、定期的な検証を行っていますか。	④研究組織の適切性について、検証しましたか。【※どのように】	C	C

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

【201】 ①研究組織の編制原理は明確には定めていない。 ②建学の精神に基づいた教育理念により設置された人文科学・社会科学・自然科学等8学部、9研究科に対応した形で、4つの付置研究所として、「仏教文化研究所」「社会科学研究所」「科学技術共同研究センター」「国際社会文化研究所」を設置している。 ③本学の理念・目的に適合した普遍的な研究組織として、「人間・科学・宗教総合研究センター」（以下、「人間総研」）を設置している。人間総研は、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に研究プロジェクトを申請し、採択を受けたものを中心に傘下に8研究センターを配置しており、外部の採否という評価を経て設置されていることから、学術の進展や社会の要請に適合的している研究組織である。 【202】 ④2010 年度に研究企画委員会・研究担当理事者連絡会議合同会議において5長アクションプランの検討課題に係り、付置研究所のあり方についての検証を行った。但し、2011 年度以降、実質化した自己点検・評価は行なっていないが、毎年、全学で実施する自己点検評価中で一定の検証は行なっているといえる。 〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。 【201】 建学の精神の具現化として、教育組織との関係や研究成果の社会還元を意識した研究組織全体の編制方針が必要である。【努力課題】 【202】 5 長アクションプラン事項への対応だけではなく、定期的に検証する体制（点検評価する場、改善を実行する場）を明確にする必要がある。【努力課題】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

特記事項なし

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

【201】建学の精神の具現化として、教育組織との関係や研究成果の社会還元を意識した研究組織全体の編制方針が必要である。これについては、2013（平成25）年度以降、全学研究会議の下に設置された研究企画委員会を中心として、教育組織との関係や研究成果の社会還元を意識した研究組織全体の編制方針の策定に向けての検討を2013（平成25）年度中を目処に進めて行く。

【202】5長アクションプラン事項への対応だけではなく、毎年、実質化した自己点検・評価を行う場（点検評価する場、改善を実行する場）を明確にする必要がある。これについては、2013（平成25）年度以降、全学研究会議の下に設置された研究企画委員会を中心として本学研究組織における定期的な検証を行い、それをもとに全学研究会議にて改善を実行する。なお、定期的に検証する仕組みについては、2013（平成25）年度以降、研究企画委員会を中心として構築し、大学全体の視点による本学研究組織の定期的検証の実施を目指す。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
特になし	特になし

II. 評価結果

総評

研究組織の編制方針については、「改善すべき点とその改善方策」に示されている通り推進していただきたい。付置研究所・センター等の研究組織については、喫緊の課題として、国際文化学部深草移転後の「国際社会文化研究所」のあり方や、5長アクションプランにおける「仏教を機軸とした国際的な研究拠点の形成」に関わる「仏教文化研究所」のあり方がある。これらの検討を推進するとともに、教育研究組織の適切性についても検証する必要がある。

学術の進展や社会の要請への適合性については、本学の研究組織の中から、人間総研及びそのもとで展開する8つの研究センターを抽出し、文部科学省の支援事業に採択されている事業であるから適合していると断言されているが、そのことのみで適合しているとは言い難いのではないかと。今後は、評価指標の設定や評価手法の開発を検討し、客観的な立場からの検証が望まれる。

大学全体の視点による研究組織の定期的検証については、2013年度より研究企画委員会を中心に定期的な検証を実施し、その結果について全学研究会議にて改善を実行することを定められたことは評価できる。

伸長すべき点（長所） 《箇条書き》

・大学全体の視点による研究組織の定期的検証について、2013年度より研究企画委員会を中心に定期的な検証を実施し、その結果について全学研究会議にて改善を実行することを定められた点。

改善すべき点 《箇条書き》 ＊各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

・喫緊の課題として、国際文化学部深草移転後の「国際社会文化研究所」のあり方や、5長アクションプランにおける「仏教を機軸とした国際的な研究拠点の形成」に関わる「仏教文化研究所」のあり方がある。これらの検討を推進するとともに、教育研究組織の適切性についても検証する必要がある。【努力課題】

- ・「研究組織全体の編制方針」については、現状説明や昨年度の改善計画書にも示されているように、策定に向けた検討について 2013 年度中を目処に進められることが望ましい。【留意点】
- ・学術の進展や社会の要請への適合性について、人間総研及びそのもとで展開する 8 つの研究センターが文部科学省の支援事業に採択されている事業であるという理由だけで適合していると断言するのは拙速であろう。今後は、評価指標の設定や評価手法の開発を検討し、客観的な立場からの検証が望まれる。【留意点】

※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

2013 年度（対象年度：2012） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 2	教育研究組織
------	--------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評価形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
201	教育組織(学部・学科・専攻等)は、建学の精神や教育理念・目的を実現できる組織として編制されていますか。	①教育理念・目的を実現できる教育組織(学部・学科・専攻等)を編制していますか。	A	A
		②学術の進展や社会の要請に適合した教育組織(学部・学科・専攻等)を編制していますか。	A	
202	教育組織(学部・学科・専攻等)の適切性について定期的に検証を行っていますか。	③教育組織(学部・学科・専攻等)の適切性を検証する体制を整備していますか。【※どのように】	A	B
		④教育組織(学部・学科・専攻等)の適切性について検証をしましたか。【※どのように】	B	

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。 点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。 ①②設置基準に基づき、学則第1条において大学の理念・目的を定め、その理念・目的を達成し学術の進展や社会の要請に応えるために、9学部（文学部、経済学部、経営学部、法学部、理工学部、社会学部、国際文化学部、政策学部、短期大学部）、10研究科（文学研究科、経済学研究科、経営学研究科、法学研究科、理工学研究科、社会学研究科、国際文化学研究科、法務研究科、実践真宗学研究科、政策学研究科）を設置している。 ③2011 年度より自己点検・評価制度を構築し、教育組織（学部・学科・専攻等）の適切性について検証を行っている。 ④全学的な課題（部署横断的な課題）については、部局長会のもとに検証・改善が進められている。 〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。 ・大学全体の視点による検証（大学全体の視点からの検証方法を構築する。） ・評価項目に応じた記述【留意点】
--

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。 ・2011 年度に構築した自己点検・評価制度により、教育組織の適切性について定期的に検証を行うことが可能となった。 ・2012 年度より、文学部に臨床心理学科を設置、文学研究科（修士課程及び博士後期課程）に臨床心理学専攻を設置した。
--

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称

II. 評価結果

総評

昨年度の総評で、「教育組織の編成が如何なる原理に基づいてなされているのかは必ずしも明確ではない。また、それらの設置の状況が理念・目的と整合しているか否かを如何なる手法を用いて点検・評価しているのかも明らかではない。さらに、どの分野の学術にどのような進展があり、社会からのどのような要請に応えたのか、それら進展や要請に対し、どの教育組織の編成により応えたのか、についても明らかにされてよい」と評されていたがこれらの指摘に配慮されることなく、今年度の記述も昨年度と同文である。改善すべき点としては挙げられていないが、総評を踏まえて記述が望まれる。

教育組織の編成の適切性の検証については、自己点検・評価制度の構築により制度的及び定期的になされる体制が構築されたものと考えられる。昨年度、自ら「検証方法を構築する」と改善方策に挙げられているが、どのように適切性を評価するかという手法の検討状況はいかがなものか。

伸長すべき点(長所) 《箇条書き》

特になし

改善すべき点 《箇条書き》 ＊各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

・検証方法について、速やかに検討されることが望まれる。【留意点】

※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要